

女子高校野球 夏の選手権大会 作新学院高校が初優勝！

7月26日～8月2日まで、「女子の甲子園」とも言われる第23回全国高等学校女子硬式野球選手権大会が、つかさグループいちじま球場と春日スタジアムで開催されました。平成12年に旧市島町で全国大会を開催してから、今年で20年目を迎える“女子高校野球の聖地”丹波市。今大会には、全国から初出場の5校を含む過去最多の32チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。

開会式では、前回大会優勝の京都両洋高校、小谷陽菜主将が「高校生らしく、はつらつとしたプレーで、最後の瞬間まで全力で戦い抜くことを誓う」と力強く宣誓。厳しい暑さの中、大会関係者や地元協力者などの努力により、全試合が終了しました。

決勝戦は、共に初優勝を狙う履正社高校と作新学院高校が対戦。2点を追う作新学院が最終回に逆転し、4対3で初優勝を飾りました。

■大会結果

優勝：作新学院高等学校（栃木県）

準優勝：履正社高等学校（大阪府）



開会式で選手宣誓する京都両洋高校の小谷主将



初優勝を決めた逆転サヨナラのホームイン

注文をまちがえる喫茶店！？ “だんない” 第1回目を開催

7月10日、認知症高齢者が喫茶店のスタッフとして注文の受付や飲み物を運んだりするカフェ“だんない”（丹波弁で“大丈夫”）の第1回目が山南地域の「木琴」で開かれました。

実行委員長の法橋さんは「もし、お客さんからの注文を間違えても“だんない”と温かく受け入れていただきたい。認知症への理解や、楽しく過ごせるカフェとして市内各地に広がれば」と話しました。



注文を受ける認知症高齢者スタッフ

農業管理アプリで生産性をアップ！ 若手農家とSAgri（株）が協定を締結



署名した協定書を持つ宮垣会長（写真左）と坪井社長

7月16日、人工衛星の観測データを活用した農地管理アプリを開発する「SAgri株式会社」と、地元の若手農家が集まる「丹波大空の会」が、アプリの実証実験を行うため連携協定を締結しました。アプリは衛星データで土の肥沃度を測定し、実際の農地の土壌分析結果と合わせて、最適な農地管理方法の提供を目指しています。

丹波大空の会の宮垣良一会長は、「生産性のアップが期待できる」と話しました。

観光でまちの活性化に取り組む 地域おこし協力隊が着任

7月17日、観光で交流人口を増加させ、まちの活性化に取り組む「地域おこし協力隊」に、大阪府出身の清水健矢さんが着任しました。地域と連携しながら観光資源を磨き、観光客の誘致や地域が儲かる仕組みづくりに取り組みます。

清水さんは「丹波市は都会から近く、四季折々の自然や人の温かさが魅力。これまでの経験を生かして地域に貢献したい」と意気込みました。



市長から委嘱書を手渡された清水さん（写真右）

丹波市へようこそ！ 若き親善大使が来丹

7月22日、短期ホームステイ事業でケント市・オーバン市から来丹した9人の「若き親善大使」が市役所を訪問しました。7月20日～29日の10日間市内ホストファミリー宅にホームステイし、学校訪問や市内外の観光、茶道・書道などを体験しました。

参加した学生は「地方都市の文化を学びたい。日本食も楽しみ」と滞在への期待を語りました。



日米の「若き親善大使」

東小学校5年 足立^{わたる}亘さん 空手で全国大会出場！



得意の上段回し蹴りを披露する足立さん

7月23日、全国空手道選手権大会への出場を報告するため、東小学校5年の足立亘さんが市役所を訪問しました。

足立さんは、4月に行われた県大会で形3位に入賞したことが評価され、初めて兵庫県の代表選手に選出。「全国から強い子が集まってきているので、挑戦する気持ちでがんばります」と抱負を語りました。

丹波大納言小豆を全国にPR！ 高校生が商品開発を体験



アイデアを提案する氷上高校の生徒

7月30日、氷上高校食品加工科の生徒2人が、農業体験の一環で、丹波大納言小豆を使った赤飯のネーミングやパッケージのデザインを考える商品開発を体験しました。

赤飯は、春日地域の「なかで農場」が小豆の販路拡大のため市の補助金を受けて開発中。高校生からは「赤飯の色が映えるパッケージに」など意見が出され、今冬発売に向けた準備が進められました。